

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんげんだいにんぎょうげきせんたー 公益財団法人現代人形劇センター	団体ウェブサイトURL http://www.puppet.or.jp/	
	代表者職・氏名 理事長 塚田千恵美		
制作団体所在地	〒 211-0035 最寄り駅(バス停) 井田営業所		
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
電話番号	044-777-2228		
ふりがな 公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ	団体ウェブサイトURL http://deaf.puppet.or.jp/index.html	
	代表者職・氏名 代表 榎本トオル		
公演団体所在地	〒 211-0035 最寄り駅(バス停) 井田営業所		
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
制作団体 設立年月	1969年4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事: 塚田千恵美 業務執行理事: 松澤文子 理事: 大杉豊、小川信夫、平野英俊、北條秀衛、築瀬恵子 監事: 桑野雄一郎	理事: 7名 評議員: 7名 監事: 1名 職員: 10名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	吉村 衣世
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	菅原 真弓
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	iyo.yoshimura@puppet.or.jp		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1969年 4月 文部省より財団法人設立認可、乙女文楽、和泉流狂言の稽古を開始 1970年 全国のからくり人形の本格調査開始 1973年 海外人形劇団招聘事業開始 1974年 出版事業開始 1975年 全国の伝統人形芝居の本格的調査開始、ヨーロッパ人形劇の実情調査開始 1978年 アジア人形劇の実情調査開始 1979年 国際児童年記念「人形劇カーニバル飯田」を提唱、事務局を担当 1980年 ろう者と聴者との協同による人形劇団デフ・パペットシアター・ひとみ 設立 1983年 デフ・パペットシアター・ひとみ初海外公演(チェコ)、 国際デフ・パントマイム・フェスティバル審査員特別賞受賞 2011年 4月 公益財団法人へ移行</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>2011年度 12校で公演、ワークショップ 2012年度 11校で公演、ワークショップ 2013年度 25校で公演、ワークショップ 2014年度 20校で公演、ワークショップ 2015年度 20校で公演、ワークショップ 2016年度 17校で公演、ワークショップ 2017年度 19校で公演、ワークショップ 2018年度 24校で公演、ワークショップ 2019年度 16校で公演、ワークショップ 2020年度 8校で公演、ワークショップ 2021年度 11校で公演、ワークショップ 2022年度 12校で公演、ワークショップ</p>			
<p>特別支援学校等 における公演実績</p>	<p>2011年度 28校で公演、ワークショップ 2012年度 15校で公演、ワークショップ 2013年度 3校で公演、ワークショップ 2014年度 6校で公演、ワークショップ 2015年度 14校で公演、ワークショップ 2016年度 4校で公演、ワークショップ 2017年度 16校で公演、ワークショップ 2018年度 15校で公演、ワークショップ 2019年度 13校で公演、ワークショップ 2020年度 (5校 感染症予防対策によりワークショップ中止) 2021年度 3校で公演、2校でワークショップ(4校感染症予防対策により中止) 2022年度 7校で公演、12校でワークショップ *ろう学校またはろう者の児童が中心の支援学校を含みます。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>http://deaf.puppet.or.jp/index_content_02.html</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	ろう者と聴者が協働でつくる、家族を描く人形劇			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	『はこ/BOXES じいちゃんのオルゴール♪』 構成・演出:くすのき燕(人形芝居燕屋) 美術:太田拓美 音楽:田丸智也 やなせけいこ 照明:後藤義夫(ステージ・アイ) 音響プラン:森下勝史(人形劇団ひとみ座) マイム指導:チカパン スライド写真:古屋 均 舞台監督:やなせけいこ 演出助手:しのぎあき(人形劇団ひとみ座) 公演時間 80 分			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	戦前から現代へ、ある家族の三世にわたる物語です。時代が進むにつれてテクノロジーが発達していくさまが描かれ、ときにその恩恵を受け、ときに翻弄されながらも、連続と続く家族のきずなを描きます。本作品の大きな特徴はセリフなしで展開していくこと。箱を使った抽象的な舞台美術や、パントマイム、人形の動きをとおして、家族のきずなという普遍的なテーマが描かれます。			
演目選択理由	<ul style="list-style-type: none"> ・本作品はセリフがありません。また、道具も大小の箱が舞台に広がり、それを様々な道具に見立てる形式の作品です。全体に鑑賞者の想像力を使う作品であり、子どもたちが楽しみながら想像力を養うきっかけにもなればいいと考えております。 ・本作品は3世代に渡る家族の姿が描かれます。戦争の時代から携帯やテレビが普及した時代を舞台に、その時代に生活をする人々が描かれます。子どもたちは鑑賞後、両親に昔の時代のことを聞くこともあるでしょう。そういった家族でのコミュニケーションが作中でも重要な要素になっており、コミュニティの繋がりが希薄になっている現代にこそ必要なテーマだと考えております。 			
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	公演の前に段ボールを使ったワークショップを行います。ワークショップでは、子どもたちがいくつかのグループに分かれて段ボールを何かに見立てて表現します。例えば段ボールをテレビに見立ててグループでそれを見ることといったことが考えられます。作品中に出てくるはこを様々なものに見立てて表現をすることを、そのワークショップで子どもたちが疑似体験ができます。その上で公演の前に子ども達のグループがそれぞれ自分たちが段ボールを何に見立てたかを発表する機会も作ります。子どもたちの想像力や表現力を養い、公演の前の良い導入になると考えられます。			
出演者	デフ・パペットシアター・ひとみ 榎本トオル、鈴木文、やなせけいこ 他3名			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 6 名 スタッフ: 3 名 合 計: 9 名	運搬	積載量: 4 t 車 長: 8.8 m 台 数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		4	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時30分	8時30分～11時30分 ※仕込み後、児童とワークショップ の稽古	13時30分～15時10分	なし	15時30分～17時	17時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
				1日	22日	
	11月	12月	1月	計	24日	
	1日					
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	40人まで(6～7人×6グループ)
		鑑賞人数目安	300人まで

くあらすじ>
時代は戦前。一人の少年が幼なじみの少女に恋をしました。不器用なアプローチを繰り返す少年に、次第に少女も心を寄せ、やがて二人は結婚します。決め手は、少年が心をこめて贈った、美しい音色のオルゴール。




悲惨な戦争をなんとか生き延びた二人。やがて二人には、娘が生まれます。テレビ・洗濯機・冷蔵庫など、便利な電化製品の登場に、三人の家族はそろって大喜び。やがて娘は結婚。家族は二世帯になりました。




ところが、そんな中、おとうさんが自動車事故で帰らぬ人になってしまいました…。やがて、若い夫婦には男の子が生まれます。家族は今や三世帯です。その傍らで、時代はどんどん進んでいきます。パソコンで仕事に追われたり、テレビやゲームに時間を奪われたり。家族はどんどんバラバラになっていきます。




そんな家族を見て、今やおばあちゃんになったあの少女が、一つの「はこ」を取り出します。それは、おじいちゃんとの恋、家族との幸せな時間のつまった、思い出のオルゴールでした。

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 **デフ・パペットシアター・ひとみ** 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	40人まで(6～7人ずつ、6グループ)
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p><テーマ> 箱からイメージをふくらませよう！</p> <p><道具> ・学校でご用意いただくもの:ホワイトボード(黒板) ・劇団が持参するもの:大小数種類のダンボール箱</p> <p><概要> 6名前後で構成されたチームごとに、箱を「何か」に見立てます。 物の形を作るのではなく、物の機能や特性を考えて、大小いろいろな箱を使って、携帯電話や動物など、なにかに見立てて表現します。それをグループの中で皆で相談して進めます。最後に各グループで発表し、表現が伝わるか、また伝わらない場合は何が問題なのかを考えて、次の表現に生かします。</p> <p><ワークショップの進行> 1、アイスブレイキング(心と体をほぐすための準備運動) 講師陣の自己紹介と手話の紹介をする。その後、手話表現の動きをもとにした身体ゲームや、言葉を使わずに気持ちを伝えるアイコンタクトのゲームを実施します。このゲームを通じて、気分をほぐしながら自分の気持ちを伝える事や、他者の表現を読み取る力を養います。</p> <p>2、デモンストレーション1 講師による実演。どんなふうに表示すればいいかを参考にしてもらいます。</p> <p>3、製作① チーム(学校での班分けでも可)に分かれて作品の製作を行う。1回目は、1個の箱を使うものをいくつか考えます。その中から1つを皆の前で発表し、作品を見た生徒さんたちは感想を述べます。</p> <p>4、デモンストレーション2 講師による、複数の箱を使った実演。</p> <p>5、製作② 複数の箱を使って何かを表現するものを複数考えます。その中から1つを皆の前で発表し、作品を見た生徒さんは感想や意見を述べる。</p> <p>6、製作③ 製作1,2を踏まえて、本公演の際に発表する作品を各チーム1つずつ決めます。</p> <p>7、公演前稽古 本公演日は発表前に1時限分程度、稽古します</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>ワークショップを通じて、児童達に想像力を養うきっかけを作りたいです。 児童たちは段ボールを使い、その段ボールをなにかに見立てることができるかを想像します。 子どもたちは段ボールをテレビや携帯などといったものに見立てるうちに、物事を多面的に見て表現する力を身に着けることができます。 その上で公演を鑑賞することで、舞台上に広がるはこが何を表しているのかを児童達も想像しやすくなり、作品世界へ入り込みやすくなる効果を狙います。 もう一つの意図として、ワークショップを通じて児童とアーティストの交流をする狙いがあります。 デフ・パペットシアター・ひとみは耳の聞こえないろう者と一緒に活動をしている劇団であるため、子ども達はろう者のアーティストとろう者と共に活動をしているアーティストと触れ合うことで、社会の多様性や共感性を学ぶきっかけになることを考えております。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>別添参照</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 **デフ・パペットシアター・ひとみ**】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>1, 作品鑑賞による児童の感受性の成長 デフ・パペットシアター・ひとみは1980年に結成された、ろう者と聴者が共に活動をするプロの人形劇団です。 ろう者の持つ視覚的に豊かな表現力を取り入れ、新しい人形劇を作ることを目的としています。これまでの43年間の全国での公演活動を、海外での公演も行うなど国内外で高く評価されている劇団です。 申請作品『はこ/BOXES じいちゃんのオルゴール♪』は2006年の初演以来国内外合わせて200箇所以上で公演を実施しております。小学校・中学校・特別支援学校での公演も数多くあり、年齢や障害の有無を超えてたくさんの人たちが楽しむことのできる作品です。 家族をテーマにした作品で、笑ってしまう面白い場面や涙を誘う感動する場面もあり、子供たちが観賞した後に児童達が両親や祖父母といった家族と話をしたくなる作品です。 作中にはセリフがほとんどありません。観賞をする児童は、セリフのない中で動きや状況などの視覚的情報や音楽を聴くことによってその場面を想像します。舞台上に広がる箱を様々な道具に見立てる表現と合わせて、児童達の想像力を使う作品です。作品をみることにより児童の想像力が刺激されます。そういった家族間でのコミュニケーション、想像力の発達には児童の感受性が育つきっかけとなり、児童のその後の人生がより豊かになることを目標としております。</p> <p>2, デフ・パペットシアター・ひとみとの触れ合いによる多様性の学習 作品だけでなく、デフ・パペットシアター・ひとみという劇団のこを知ることも児童にとって生きることの大きな経験値の一つとなります。 私たちのような障害を持つ人がプロとして活動をしている文化団体があることを知ることは児童達が今後の人生に於いて多様性を考えることの一助となります。耳の聞こえないことをハンディキャップとしてでなく、それを個性として取り入れることで新しい人形劇を作り出していることを知り、児童の今後の生活での障がいを持つ人との交流がしやすくなるきっかけとなると考えます。</p> <p>3, ワークショップを通じて発想力と想像力を養うこと 作品鑑賞だけでなく、ワークショップでの交流も重視しています。段ボールを使い様々なものに見立てるワークショップは、児童に作品の世界に入り込みやすくなるだけでなく発想力と想像力を養うきっかけにもなります。 また、出演者がワークショップの講師となることで、児童とろう者のアーティストが直接交流をします。普通学校に通う児童にとっては普段ふれあう機会の少ないろう者との交流の機会となり、特別支援学校ではプロとして文化活動に携わるろう者を知ることができます。どちらの学校でも、児童が多様な生き方を知るきっかけとなり、将来に広いヴィジョンをもつことができます。 作品観賞とワークショップ、二つの面で普段とは違う体験をすることで児童達の心に残り、その後の人生をより良いものとしていく経験の一つになることを目指してまいります。</p>
	<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>デフ・パペットシアター・ひとみはより多くの人が楽しめるための人形劇を目指しています。これまで小学校・中学校・特別支援学校と多くの学校での公演を経験しています。今回の事業においてもその経験を活かし、学校と連携して適切な対応を取ってまいります。 例えば特別支援学校では知的や精神、聴覚といった障がいの種別に適切な対応をとるためにその学校との事前の打ち合わせは念入りに行います。通常学級でも、ワークショップの際にそれぞれの学校の担当の方と打ち合わせをしてその学校や観賞児童にあった対応をするよう心がけます。 公演の際には通常の体育館のステージでは作品の舞台としては小さいことが想定されます。そのためステージではなく下のフロアに舞台を作ることになると考えています。その場合、客席と舞台が平面になってしまい、舞台見られない児童や見にくい児童が出ることを防ぐため、こちらで3種類のベンチを100人分前後持ち込むことで観賞する児童全てが見やすくなる環境を整えます。 出演者やワークショップの講師にはろう者とう聴者がいます。ろう者のコミュニケーションには手話に長けた劇団員の聴者が手話通訳をして行うことができます。また、学校に事前学習資料として「ろう者とのコミュニケーション方法」を簡単に紹介するプリントを共有します。 手話以外にも筆記やホワイトボードを使ってのコミュニケーション、かきポンという書くことや消すことを簡単に行える小ボードを用意することで、児童や先生とのやりとりがスムーズに行えるようにいたします。学校によっては、今年度は手話通訳者も1名参加します。</p>

リンク先	No.3	【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ 】
項目内容	<p data-bbox="638 302 1117 414">耳の聞こえない劇団員がいるので、手話を交えてワークショップが進行します</p>   <p data-bbox="510 705 997 817">アイデアが柔軟に出せるよう、気持ちや体をほぐすアイスブレイキングをします。その後講師による実演を行います。</p> <p data-bbox="933 840 1428 952">チームに分かれて作品の実際につくってみます。たくさんのアイデアをそれぞれで出し合います。</p>    <p data-bbox="550 1601 1109 1646">できた作品は、観劇の日に、みんなの前で発表します。</p>	